

各関係機関団体の長 } 殿  
各病虫害防除員 }

福岡県病虫害防除所長

平成26年度病虫害発生予報第2号（5月）について

このことについて、病虫害発生予報第2号を発表したので送付します。

予報第2号

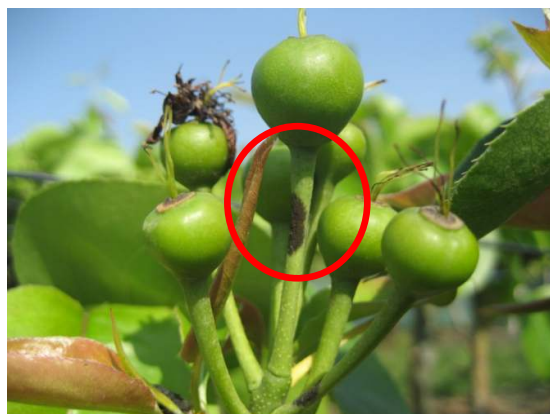
**なし黒星病に注意しましょう。**

なし黒星病は降雨により伝染するため、梅雨明けまで注意が必要です。

4月5半旬に、一部ほ場で果実や果梗での発病が認められました。

発病した葉や果実は、見つけ次第取り除き園外に持ち出し処分しましょう。

また、発病の多い園では追加防除を行うなど、薬剤散布を徹底しましょう。



果梗に発生した黒星病

<予想される向こう1か月の天候（平成26年4月26日～5月25日）>

天気は数日の周期で変わるでしょう。平年と同様に晴れの日が多い見込みです。

向こう1か月の平均気温は、平年より低いでしょう。降水量と日照時間は、平年並でしょう。

週別の気温は、1週目は平年並か低く、2～4週目は平年並でしょう。

向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率（%）

要素	低い（少ない）	平年並	高い（多い）
気温	40	30	30
降水量	30	40	30
日照時間	30	40	30

（福岡管区气象台 平成26年4月24日発表抜粋）

5月における主な病害虫の発生動向は、次のように予想されます。

### 主な病害虫の発生予報概要

作物名	病害虫名	発生量 (現況)	発生量 (5月の発生予報)	
		平年比	平年比	前年比
かんきつ	そうか病	やや少	やや少	並
なし	黒星病	並	並	並
かき	フジコナカイガラムシ	並	並	やや少
果樹共通	チャバネアオカメムシ	—	—	多

### 作物別発生予報

注①：この予報は病害虫防除所の現地調査結果に基づき、情報作成会議を経て作成しています。  
 注②：予報の根拠の末尾の（ ）書きは、（+）は発生を助長する要因、（-）は発生を抑制する要因、（±）は発生の助長及び抑制に影響の少ない要因であることを示します。

#### 【果樹：かんきつ】

##### 1 そうか病

###### (1) 予報の内容

発生量：平年よりやや少・前年並

###### (2) 予報の根拠

ア 4月5半月調査の結果、発生量は平年よりやや少なかった（-）。

発病葉率 0%（平年 0.2%、前年 0%）

発生ほ場率 0%（平年 15.3%、前年 0%）

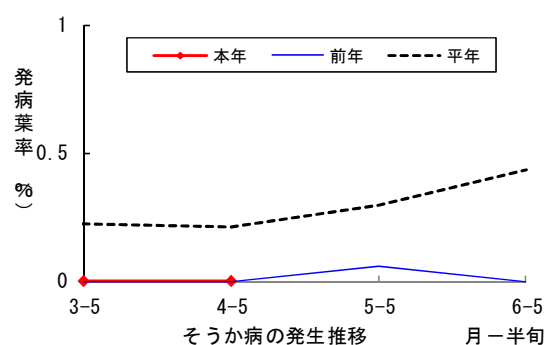
イ 向こう1か月の気象予報では気温は低く、降水量は平年並とされている（±）。

###### (3) 防除上の注意

ア 落花直後に灰色かび病、黒点病との同時防除を実施する。

イ 罹病葉は見つけ次第除去する。

ウ 農薬の使用及び散布にあたっては、P4の内容を確認の上、適切に実施する。



#### 【果樹：なし】

##### 1 黒星病

###### (1) 予報の内容

発生量：平年・前年並

###### (2) 予報の根拠

ア 4月2半月調査の結果、発生量は平年並であった（±）。

発病花そう率 0.4%（平年 0.3%、前年 1.6%）

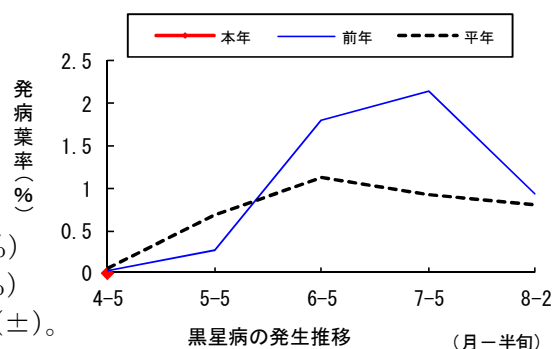
発生ほ場率 18.2%（平年 8.4%、前年 25.0%）

イ 4月5半月調査の結果、発生量は平年並であった（±）。

発病葉率 0%（平年 0.1%、前年 0%）

発生ほ場率 0%（平年 8.9%、前年 8.3%）

ウ 向こう1か月の気象予報では、気温は平年より低く、降水量は平年並とされている（±）。



(3) 防除上の注意

- ア 罹病葉や罹病果実は、見つけ次第除去する。
- イ 薬剤感受性の低下を避けるため、同一系統薬剤の連用は避ける。
- ウ 薬剤防除に DMI 剤を用いる場合は、保護殺菌剤を混合する。ただし、有機銅剤は効果が低下するため混用しない。

【果樹：かき】

1 フジコナカイガラムシ

(1) 予報の内容

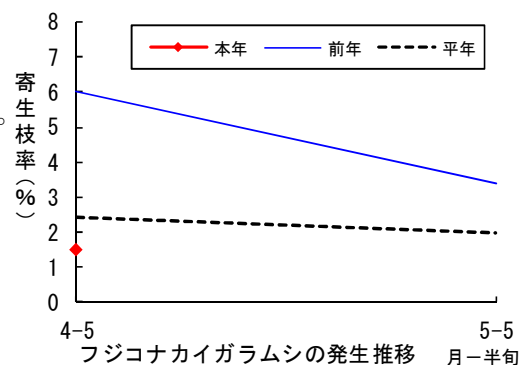
発生量：平年並、前年よりやや少

(2) 予報の根拠

- ア 4月5半旬調査の結果、発生量は平年並であった(±)。  
寄生枝率 1.5% (平年 2.4%、前年 6.0%)  
発生ほ場率 50.0% (平年 47.0%、前年 46.2%)
- イ 向こう1か月の気象予報では、気温は平年より低く、降水量は平年並とされている(±)。

(3) 防除上の注意

- ア 天敵の影響が比較的少ない薬剤で防除する。



【果樹共通：チャバネアオカメムシ】

(1) 予報の内容

発生量：前年より多

(2) 予報の根拠

- ア チャバネアオカメムシの1㎡当たりの越冬量は、平均 4.8 頭(前年 0.7 頭、前々年 3.2 頭)で、前年より多、前々年よりやや多であった(+)
- イ 向こう1か月の気象予報では、気温は平年より低く、降水量は平年並とされている(±)。

(3) 防除上の注意

- ア カメムシ類は夜温が高くなると活動が活発になるので、気温の推移や地域の予察灯の誘殺状況を確認し、園への飛来状況に注意する。
- イ ウメ、モモ、スモモ、ナシ、カンキツ等では、園内の発生状況の把握に努め、発生に応じて防除を行う。

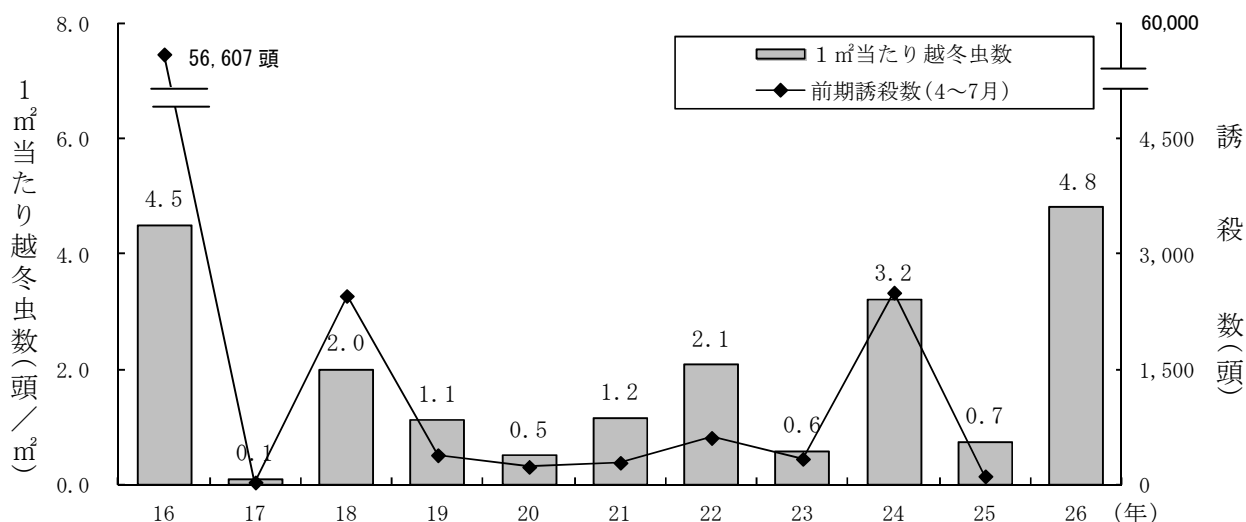


図1 チャバネアオカメムシの1㎡当たり越冬虫数と前期誘殺数の年次推移

【果樹：その他の病害虫】

作物名 病害虫名	発生量 (現況)	発生量 (5月の発生予報)		防除上注意すべき事項等
	平年比	平年比	前年比	
かんきつ アブラムシ類	やや少	並	並	・ミカンハモグリガやハマキムシ類との同時防除を行う。
ミカンハダニ	並	並	並	
なし 赤星病	やや多	やや多	やや少	・ビヤクシンからなしへの感染は、4月中旬頃までに、ほぼ終了したと考えられる。
アブラムシ類	やや少	やや少	やや少	・発生初期に防除する。

## 農薬の安全・適正使用、飛散防止対策の徹底を！

福岡県では、農薬の安全かつ適正な使用及び保管管理、使用現場における周辺への配慮を周知徹底するとともに、農薬による事故防止を目的として、安全使用講習会の開催や啓発チラシの配布等に関係機関、団体と一体となって取り組んでいます。

使用者の安全はもちろん、人畜・隣接作物・河川等への配慮について、ご指導をお願いします。

### 1 農薬適正使用の徹底

○適用作物、使用量や濃度、使用時期、総使用回数などが記載されたラベルをよく確認し、使用基準を遵守する。

※農薬の種類によっては、登録の内容がメーカーによって異なるので、ラベルをよく確認する。

(例：スミチオン水和剤40は、メーカーによって適用作物名や適用病害虫名が異なる)

### 2 飛散防止対策の徹底

○風の弱い時に散布する。

○風向、散布方向、散布時間、散布圧などに留意する。

○飛散しにくい農薬（剤型）や飛散が少ないドリフトレスノズルを使用する。

○散布ほ場周辺の収穫前の作物には十分注意する。

### 3 保護具の着用

○農薬の散布時には、ラベルの注意・警告マークをよく確認し、マスク、保護メガネ、ゴム手袋等を着用する。

### 4 農薬の散布後は、必ず散布器具を洗浄

○噴霧器、薬液タンク、ホースなどの散布器具を十分に洗浄する。

### 5 防除履歴の記帳

○農薬の散布が終わったら、作物名、ほ場の場所、使用年月日、薬剤名、使用濃度、使用量等を正確に記帳する。

### 6 空容器の処分

○空容器は、産業廃棄物処理業者に委託するなど、適切な処分を行う。

また、野焼きは法令で禁止されているので行わない。